
知識と言語の壁を超える

研究支援から社会実装へ。

Research support & social implementation

XR / 3DCG・アプリケーション開発

専門知を " 見える・伝わる・動ける " に変える

研究成果を、 社会へ届けるお手伝いをしたい。

株式会社白獅子は、XR (VR・AR)・3DCG・アプリケーション開発を専門とする会社です。医療、防災、教育の分野で、13年にわたり実績を積み重ねてきました。

なかでも力を入れてきたのが、行動変容の促進と検証を目的とした開発です。

研究者・指導者の方々が描くイメージを、視覚化・体験化という形で具現化してきました。

単にコンテンツや映像をつくる制作会社との違いは、研究者の方々と13年間、研究の指針を共有しながら伴走してきた点にあります。

科研費の範囲内での対応はもちろん、予算が限られる状況でも、できる限り柔軟に進め方を考えます。

私たちが大切にしているのは、研究者・指導者の方々の取り組みが、社会と正しくつながり、正当に評価されることです。

そのために必要なソフトウェアをつくり、共に歩む—それが白獅子の使命です。



私たちは、研究知を
可視化し、体験化し、社会実装可能な形へ整える。
それが白獅子の研究支援です。



1 可視化

言葉や静止図だけでは伝わりにくいものを、理解しやすい映像・図解へ整えます。

2 体験化

「知っている」ではなく「実感できる」体験を、VR・AR・MRで設計します。

3 社会実装

教育、研究、説明、導入のための表現へ落とし込み、現場で使われる形へ整えます。

研究や教育の価値を最もよく理解しているのは、研究者、指導者の方、ご自身です。
私たちはその価値に対して誠実であるために「**表現の精度**」にこだわります。



奈義副社長



ビアンカ人事部長



マイケル営業部長



白社長クリファイル配布中

▶ 白社長と共に、私たちと一緒に白獅子を支える猫さんたち

理解の共有から行動変容まで。

研究知を社会に届く体験へ置き換え、白獅子は研究者・医療者・教育者の皆様と伴走します。

要件定義 ▶ デザイン (設計) ▶ 可視化 ▶ 体験化 ▶ 実装まで、一気通貫で支援する。

1 3DCG可視化

3DCG visualization

病態、術式、内部構造、装置、工程、災害発生・挙動など、言葉や静止図、撮影動画だけでは伝わりにくいものを、理解しやすい映像・図解へ整えます。

高精細4K～8K映像(60fps以上)、リアルタイム3Dも対応します。

2 XR体験設計

XR experience design

XR (VR・AR・MR) の技術を用い、患者視点、災害時の判断、教育訓練、危険の我が事化など、「知っている」ではなく「実感できる」体験を設計します。

行動変容 ▶ 習慣化を目的とした設計が特長です。

3 アプリケーション開発

Application development

VRゴーグル(HMD)、PC、タブレット、スマートフォン、WebGL、展示端末など、利用現場に応じたインタラクティブな仕組みを実装します。

センサー連携・データ収集・複数人同時ログイン可能な、メタバース空間開発にも対応。

4 研究データの実装

Research data implementation

論文、図表、CT/MRI、CAD、点群、観察記録などをもとに、教育・研究・説明・導入のための表現へ落とし込みます。

科研費・補助金の枠内での開発相談にも対応。
納期についても、お気軽にお問い合わせください。

研究知
Input

▶ 可視化・体験化・実装
Process

▶ 理解共有・行動変容
Outcome

研究支援

事例は、こちらからご覧ください。▶



白獅子は、単にきれいなCGをつくるだけの会社ではありません。
研究知を、理解と行動へ変える会社です。

What we are not

- × 依頼された内容を表現・納品のための制作会社
- × 映像の完成度のみを追求するCG会社
- × 汎用コンテンツのみを販売するシステム会社

What we are

- ✓ **課題整理から始める**
何を・誰に・どの場面で・どう行動に結びつけるかまでを設計します。
- ✓ **伝わり、行動へつなげる実装を目指す**
成果物は映像やXRであると同時に、
教育モデルであり、研究装置であり、社会実装の入口でもあります。

私たちが目指しているのは、「伝えるための制作」ではなく、「伝わり、行動へつなげるための実装」です。

白獅子の成果物は、映像やXRコンテンツであると同時に、教育モデルであり、研究装置であり、社会実装の入口でもあります。

見栄えだけでなく、理解、危機感、判断、行動にどうつながるか？
そこから逆算して設計すること。それが白獅子が提供する価値の本質です。

制作事例

事例は、こちらからご覧ください。▶



研究機関との連携は、肩書きではなく、**設計の深さを支える。**

岡山大学 × 岡山市消防局

2020年4月～ | 産学官三者連携（全国初）

心理学 × VR で住宅火災による死者をゼロへ

避難行動をデータ化し、行動心理学の知見で分析。VRアプリケーションから行動データ集積する、システムの開発・研究として全国初。



京都大学防災研究所

2022年9月～（制作受託） | 2025年9月～JST ムーンショット型研究開発契約締結

災害リスクの身体性認知促進を目的としたVR技術開発

国際最前線の防災研究に体験設計で参画。藤見淳教授との共同開発。



東京大学生産技術研究所（目黒・沼田研究室）

2022年10月～ | RC-77 デジタルツイン防災WG

RC-77 デジタルツイン防災WG（HazAwareVR 研究開発）

防災を「コストからバリューへ」転換する発想のもと、日常と地続きの防災意識形成を目指す。



愛媛大学防災情報研究センター

2025年6月～ | 愛媛大学防災センター長／工学部長 森脇亮教授

VR技術を用いた地域防災教育に関する共同研究

体験→解説→実践の学習サイクル設計。西予市・三瓶地区フィールドワーク・行動変容の定量調査まで。



岡山大学 × 岡山市消防局 | 産学官三者連携

VRを"見せる"のではなく、 避難行動を研究する。

白獅子は、岡山大学、岡山市消防局との三者共同研究により、住宅火災予防に係る研究を進めてきました。

この研究では、仮想空間で住宅火災を体験した際の避難時の軌跡をデータ化し、心理学的観点から分析することで、データ・エビデンスに基づいた最適な避難方法の研究を行っています。

岡山大学はこの取り組みを、VRによる住宅火災被災時における生存率向上を目的とした行動データ集積システムの開発・研究として紹介しています。

白獅子にとって、防災 XR とは演出ではありません。人が災害時にどう迷い、どう止まり、どう判断し、どう逃げるのか。

それを研究し、教育へ還元するための仕組みです。

心理学 × VR で火災による死者をゼロへ
岡山市消防局、VR ソフト開発の株式会社白獅子との三者間で、住宅火災予防に係る研究についての契約を締結



第30回総務省消防庁防災まちづくり大賞
「日本防火・防災協会長賞」を受賞。



これまでの評価

- 内閣官房 国土強靱化レジリエンスアワード 2024『優秀賞』
- 総務省消防庁 第30回『防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会長賞』
- 防災 × 減災サステナブル大賞 2024『奨励賞』
- Meta quest アイデアピッチ『優秀賞』

評価を受けたことは、VR 技術そのものだけではなく、火災時の適切な判断と行動を促す教育モデルとしての意義です。



本研究は産学官三者連携により、「住民の実際の行動・意識」を把握する上で重要な役割を果たしています。コンロ火災を体験することで「消防局による避難広報のあり方が変わった」と担当者が語るほどの効果が生まれています。

研究機関との連携は、肩書きではなく、設計の深さを支える。

京都大学防災研究所

2022年9月～ | JST ムーンショット型研究開発事業

洪水リスクの"身体性認知"に体験設計で参画

防災教育において、危険性を知ることと、備えようと思うことのあいだには、しばしば大きな隔りがあります。

白獅子は、こうした研究知見と現場の知見を踏まえ、災害を一人称的に捉えられる体験の設計に取り組んでいます。



京都大学防災研究所との開発・共同研究において、パーティクルシミュレーションと物理演算で、災害現象を科学的に再現。

専門研究者の評価と検証を経たコンテンツは、他社と一線を画します。



● Research evidence — 洪水リスクコミュニケーション研究

3DCGによる洪水動画は備えの意図を有意に高め、脳画像実験では恐怖処理に関連する脳領域(扁桃体)の活性化を引き起こしたことが示されています。体験的情報は、記述的情報と置き換えられません。

東京大学生産技術研究所 RC-77

2022年10月～ | 目黒・沼田研究室 デジタルツイン防災 WG

防災を日常化すること。

防災を「コストからバリューへ」、さらに「フェーズフリー」へ転換する発想のもと、これまでの経験や技術を活かし、メタバースの領域をXRを用いて活用する共同研究、開発を進めています。

災害疑似体験により、単発の驚きを提供するだけでなく、日常と地続きの減災・防災意識の形成が目標です。

愛媛大学防災センター

2025年6月～ | 愛媛大学防災センター長 / 工学部長 森脇亮教授

体験を、地域に根づく防災教育モデルへ

「体験→解説→実践」の学習サイクル設計、西予市・三瓶地区における、現地フィールドワーク、行動変容の定量調査まで視野に入れた共同研究。

研究、教育、地域実装を分断せず一つの連続した設計として扱い、地域防災における「自分ごと化、自助・共助」へと結び付けます。

『災害体験 VR』

防災に尽力する指導者・教育者の方々へ。

「何度説明しても、災害の怖さが伝わらない。」

「訓練に人が集まらない。」

「イメージを、もっとリアルに共有したい。」

消防、自治体、警察、教育機関、企業のBCP担当者——現場で防災に尽力する指導者・教育者の方々は、こうしたもどかしさを抱えています。

白獅子が提供するVR・3DCGは、その方々が長年積み上げてきた知見と経験を、より多くの人へ届けるためのツールです。

世界中の全員へではなく、防災を本気で伝えようとしている人の傍らに立つ——それが私たちの役割です。

京都大学防災研究所との共同研究では、緻密なパーティクルシミュレーションと物理演算で災害現象を科学的に再現。

専門研究者の評価と検証を経たコンテンツは、「正確に再現されている」という点で他社と一線を画します。



地域の防災活動を、体験が変える。

全国140以上の団体・自治体・企業で活用。
防災セミナー、訓練、BCP研修、地域イベントなどで120,000人以上の方が体験。
『事故・怪我ゼロ』幅広い現場で導入されています。

広島県庁

地域防災活動への継続貸出

県庁から地域の防災活動向けに継続的に貸出中。
地域の方が「自分ごと」として防災を捉えるきっかけとして定着しています。



岡山市

岡山市消防局でのリース運用

岡山市へのリース（6年目継続中）を通じ、市内の消防局での訓練・啓発活動、
市域全体での継続的な防災教育に活用されています。



浜松市

地元企業の寄付事業で防災施設へ導入

地元企業の寄付事業を通じて、市内の防災啓発施設で継続活用中。
地域に根づいた防災教育の拠点となっています。



大阪市・警察・自衛隊・企業BCP他

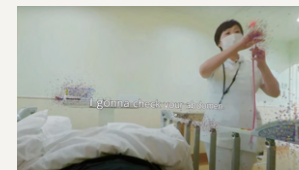
地域防災活動への継続貸出

聖路加国際大学・国際交流センターほか、防災セミナー、
企業BCP研修・学校教育・地域イベントなど、様々な場面で活用されています。



医療の現場で、**見えないものを体感へ。**岡山大学病院 感染症内科 / 感染制御部
感染症対策 VR

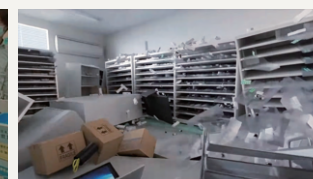
細菌・ウイルスを温度・湿度に応じてリアルタイムに可視化し。
手指衛生の重要性を体感として伝える教育ツール。

岡山大学医学部保健学科看護学分野
食道がん術後ケア メタバース

患者と医療従事者が同一メタバース空間へログイン。
術後のケアやセミナーを遠隔で実施。場所を問わない継続的な看護支援モデル。

岡山大学薬剤部・大塚製薬株式会社
薬局 地震・避難体験 VR

震度7強の横揺れを体感し、薬局内から屋外へ避難するまでの状況を再現。
薬剤師が災害時の判断と行動を体験的に学ぶ教育ツールとして開発。

岡山大学病院薬剤部・株式会社Medswell・沢井製薬株式会社
「KimBen pharma VR」薬剤師研修 VR

VR空間内で気付きのポイントを判定するインタラクティブな研修ツール。
薬剤師の実践力向上を、体験を通じて支援します。



世界中の研究者・指導者へ向けて

体感が、社会を動かす。

株式会社白獅子は 2012 年に創業し、3DCG・XR・アプリケーション開発を通じた研究支援を事業の核に、13 年以上にわたり活動してきました。

「見えないものが見える形へ、伝わりにくいものを体感へ変える」—この一点にこだわり続けてきた結果、防災・医療・教育・研究開発の各領域で、140 以上の団体・機関への販売・レンタル、また「事故・怪我ゼロ」の実績を積み上げています。

私たちが大切にしているのは、技術そのものではなく、その先にある人の変化です。研究者の知見が社会へ届く。指導者のイメージが住民へ伝わる。患者が自分の病気を「自分ごと」として理解する。その瞬間のために、ソフトウェアをつくり、伴走します。

Company overview

- 社名 株式会社白獅子（シロジシ） / Snowlion.Inc
- 設立 2013 年（平成 25 年）
- 代表 代表取締役 春名義之
- 所在 〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1 岡山大学インキュベータ 214
〒107-0062 東京都港区南青山 1-20-2（東京広報室）
※東日本支社（仙台）、環太平洋防災推進拠点（高知）、現在時準備中。

Track record

120,000名+
累計体験者数

140団体+
導入機関数

13年+
研究支援実績

13 年間、120,000 人以上の方々 VR を体験していただき、140 以上の団体・機関に導入されてきました。数字の一つひとつが、現場での真剣な問いと、それに応えてきた積み重ねです。

これからも、研究者・指導者の方々と共に、体感が社会を動かす瞬間をつくり続けます。

▶ 白獅子イメージキャラクター



研究支援から社会実装へ。

知識と言語の壁をこえる。

科研費・補助金対応、NDA 締結、年度内執行など、研究・教育機関の実務に沿って進めます。詳細な事例・動画・開発実績は各 QR コードからご覧ください。

白獅子の事業 研究支援・共同開発

研究テーマのイメージを 3DCG・XR で具現化。
科研費の枠内で提案可能です。



防災教育コンテンツ販売・レンタル 災害体験 VR 事例・ご導入

140 団体以上の導入事例。
コンテンツラインナップ、ご導入方法のご案内。



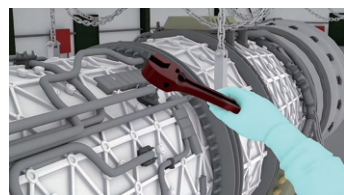
医療機関との共同開発 医療 XR 事例

感染症対策 VR・糖尿病体験 VR・食道がん術後
ケアメタバーズ。共同研究の詳細・開発事例。



工場などの危険区域でのリスクマネジメント 労働災害防止 VR

現場の危険作業を VR で疑似体験。
労働災害の防止、熟練技能の継承を実現。



ご相談 お問い合わせ・相談

研究支援・共同研究・導入・展示相談はこちら
から受け付けています。



『白社長』と役員・猫秘書たちについて 白獅子の猫さんたち

白社長、小梅秘書、タビ子秘書他、
白獅子の猫さんたちをご紹介します！



■ VR コンテンツのデモ・無料体験も行なっています。まずは、お気軽にご連絡ください。 info@snowlion.jp / 086-236-8869

「知識と言語の壁を超える」とは。

専門知識は、正確に記述されていても、届かないことがあります。

言語が違えば、さらに届かない。

この言葉は、情報の翻訳ではなく、『体感への変換』を意味しています。

見ることで分かる。体験することで動ける。

その回路を設計することが、私たちの仕事です。

防災の現場で、医療の教育で、研究の社会実装で—

領域が違って、問いは一つです。



XR / Metaverse & 3DCG

株式会社 白獅子